

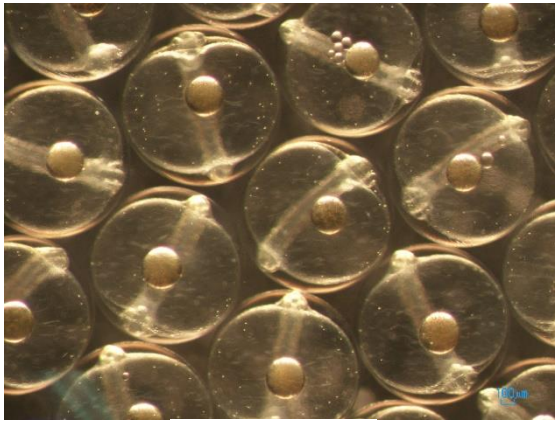
ブリ人工種苗生産試験について

養殖研究部 池崎 公亮

はじめに

ブリ養殖に用いる種苗は天然種苗に依存しているため、その採捕量や種苗性が安定していません。また、養殖ブリの販売において、量販店や欧米向けの輸出業者から、履歴が明らかな人工種苗が求められています。

そこで、効率的なブリ人工種苗の量産技術の開発を目的とした人工種苗生産試験を実施しています。



ブリ受精卵



ふ化仔魚

取り組み内容

200L ふ化水槽で受精卵をふ化させた後、ふ化仔魚を10kL水槽へ收容し、1月下旬から2月下旬まで種苗生産試験を行います。生産された種苗は、4月下旬まで水産研究センター内の水槽で中間育成を行い、その後、生産された種苗を養殖業者へ提供し、海面筏での養殖試験を行います。



200L ふ化水槽



10kL 水槽收容後の仔魚（全長約4mm）

種苗生産試験の方法は以下のとおりです。

(1) 受精卵

国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所五島庁舎で採卵された受精卵を購入し、ふ化した仔魚を種苗生産試験に使用します。

(2) 餌料

ふ化した仔魚には、以下のとおり給餌を行います。

4日齢（全長約4mm）～20日齢（全長約7mm）：L型ワムシ

20日齢（全長約7mm）～30日齢（全長約14mm）：アルテミア

25日齢（全長約8mm）～：配合飼料

(3) 試験期間

種苗生産：1月下旬～2月下旬

中間育成：2月下旬～4月下旬

養殖試験：4月下旬～

令和2年（2020年）1月から種苗生産し、5月に養殖業者へ提供し、海面筏での養殖試験を開始しました。

順調に成長すれば、令和3年（2021年）9月以降に魚体重が約3kg以上になり、出荷される予定です。



養殖試験のため活魚船へ積込



令和2年12月：尾叉長43cm

魚体重1,500g